

## はじめに

社会の変化が急激に進む中、先行きが不透明で予測が困難な未来の社会を子供達が自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を身に付けるため、学校教育の改善・充実が強く求められています。今年度から高等学校においても新しい学習指導要領に基づく教育が年次進行により実施され、これにより全ての校種において、育成を目指す資質・能力が明確化された教育活動が始まりました。そのため、各教員は、自身の授業を磨くとともに、人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、一層の研究と修養に努めなければなりません。また、教育を取り巻く課題は、多様化・複雑化・困難化しているため、様々な関係者とともにチームとして組織的に解決に向けた取組を進めていくことが重要となっています。

このような背景を踏まえ、当センターでは、未来を拓く子供を育むために、教職員の研修及び教育に関する専門的・技術的事項の調査研究を行い、教育の振興を図ることを基本方針とし、「学び続ける教職員を支え和歌山の教育を元気にする」ための事業を進めています。

本誌は、当センターが実施する各事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、今年度に取り組んだ4つの研究及び実践を掲載しています。

「共感や共有に基づいた協働的な学校組織づくり」では、近年の学校教育が乗り越えるべき課題として挙げられている「教師の働き方や働きがい」と『「チームとしての学校」の機能強化』に向け、「共感や共有に基づいた協働的な学校組織づくり」を設定し、その実現のために保持すべき視点及び具体的な手段を提案しています。

「教育センター学びの丘が実施する研修で設定したクロスセッションから得られる教職員の学びに関する研究」では、研修受講者がワークショップでどのような学びを得ているのかを明らかにするとともに、それらの結果を基にして検討した各キャリア段階や様々な職種の教職員の学びを促進するクロスセッションの在り方について報告しています。

「新たな教師の学びに向けた校内研修の在り方についての考察」では、社会が大きく変化する中、教師が自律的・自発的に学び続ける姿勢をどう保持すべきか。学校組織における同僚性・協働性を高めながら、各教員が前向きに取り組むことのできる校内研修の在り方について、2つの実践例を紹介しながら提案しています。

「実感を伴った理解を図る天文分野における授業プログラムの開発」では、理科において、教員の苦手意識が強いとされる天文分野の指導について、当センターが所有するプラネタリウムとデジタル地球儀を併用し、地球からの視点と宇宙からの視点の両面から天体を捉えることにより、児童生徒が実感を伴った理解を図ることのできる授業プログラムを提案しています。

以上、これらはいずれも本県の教育現場における今日的教育課題に対応するための研究及び実践です。本誌の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん、本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、御高覧の上、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和5年3月

和歌山県教育センター学びの丘  
所長 森田 浩二